

武力をスラップスティック・コメディに変える

見よ。この力強いサムライたちを。隙のない様子で堂々と立つ勇ましい姿。互いを威嚇するために浮かべているすさまじい形相。彼らが長い剣を引き抜き、戦闘態勢に入る場面で震えよ。2人が他の3人に無理やり5人6脚をやらされて、いじめっ子のように怒鳴りあい、転ぶ場面に注目せよ。その後も、厳しい表情のままの2人が、タンゴのような音楽に合わせて儀式的なコーラスラインに加わって陽気に踊る場面も見逃してはならない。

水曜に、今夏のリンカーン・センター・フェスティバルのオープニングを飾った、非常にエンターテインングな日本の作品、「ムサシ」。土曜まで David H. Koch Theater で上演されるこの舞台では、サムライたちが威厳を保つのは容易ではない。

この作品の優れた脚本を書き上げたのは井上ひさし。演出は蜷川幸雄である。時は17世紀。主役は敵対する2人のサムライ。黒澤明監督の「七人の侍」のサムライがそうであったように、この作品のサムライたちも剛勇で血に飢えているのかと思われた。

しかし、僧侶たちや、多くの名を持つ母のような元踊り子が共謀して、宮本武蔵（藤原竜也）と彼の宿敵、佐々木小次郎（勝地涼）の戦意を削ごうと努める。武蔵と小次郎の決闘は、日本では伝説となっているが、この尊敬すべき脚本家と演出家の多種多様の精巧な演劇の魔法にかかれば、武蔵と小次郎に闘うチャンスはない。

日本人にとって武蔵という名前は、アメリカ人にとってのワイアット・アープやビリー・ザ・キッドと同じくらい有名である。剣客、軍事戦略家、画家であった武蔵は1580年に生まれ。彼の存在は日本人の中で永遠に生き続けていて、文学、アクション映画、ゲームの中で永遠にスーパーヒーローとして扱われている。武蔵を題材とした最新の作品である「ムサシ」は、1930年後期に新聞連載が開始した、吉川英治の人気小説を原案としている。井上氏は、小説の冒頭にある、武蔵と彼の若きライバル、小次郎の決闘を舞台のオープニングに持ってきた。